

「イエス・キリストの系図の意味」 マタイ 1：1－17

- I 創世記1：1の御言葉が、聖書全体の基の役割を果たしているように、マタイ1：1も新約聖書の土台となっている。全聖書が神の創造という土台に立っているように、新約聖書は旧約聖書が指示していた救い主イエス・キリストについて語っており、この方の上すべての教えが立てられている。
- II 系図は実に重要なもの。系図に記された人物が、実在した人物と証明するもの。私達の救い主イエス・キリストが神話的な架空の人物ではなく、実に歴史的な実在人物であると、新約聖書がその冒頭で宣言している。聖書は「うまく考え出した作り話」を伝える書ではない。歴史的事実を記す書。救い主は、旧約聖書の預言通り、実際にこの世に来られた。神は、人となり、この世に実際に来られた。長い間、約束されていた通りに。
- III 「アブラハムの子孫、ダビデの子孫、イエス・キリストの系図」：1。アブラハムは、今から約4千年前の族長であり、神はアブラハムの子孫によって全世界を祝福する約束を与えられた（創12、17、18、22章）。イエス様は、この子孫そのもののお方であり、約束の成就のお方。ダビデは、今から約3千年前の王、イスラエルの歴史上最も偉大な王であり、その子孫によって王座が永遠に確立されると神は約束された（IIサム7：12－16、詩篇89、132篇）。この約束は、メシヤ的意味を持つと理解され、「ダビデの子」としてユダヤ人にその到来を待望された。「イエス」は、「主は救い」の意。「キリスト」は、「油注がれた者」の意から、「救い主」を意味するようになったヘブル語「メシヤ」の相当するギリシャ語からの音訳。
- IV ユダヤの系図の慣習に反して、4人の婦人の名前が出て来ることは、注目に値する。1. ここから、神は、男性も女性も差別なく愛される事を教えられる。「バプテスマを受けてキリストにつく者とされたあなたがたはみな、キリストをその身に着たのです。ユダヤ人もギリシャ人もなく、奴隷も自由人もなく、男子も女子もありません。なぜなら、あなたがたはみな、キリスト・イエスにあつて、一つだからです」（ガラテヤ3：27、28）。2. 3節のタマルは、しゅうととの姦淫によってパレスとザラを産んだ。5節のラハブは遊女、ルツは、ユダヤ人ではなくモアブ人、6節のウリヤの妻（バテシェバ）は、ダビデがウリヤから奪った女性だった。ここから教えられる事＝①異邦人であるルツが、メシヤの系図に載せられている事から、主は、ユダヤ人だけの救い主ではなく、異邦人の為の救い主でもある恵み。②タマルもラハブもウリヤの妻も、聖く正しい人と言える人ではなかった。またダビデにも、7節から系図に出て来る王達にも罪があった。ここから教えられる大切な事は、救い主イエス・キリストは、「自分こそ正しく聖く立派で救われるにふさわしいと高ぶる人」を招いて救おうとされているのではなく、自分は、罪深く、神の愛を受け救われるに値しない者ですと言う人を招いておられるという恵み。「わたしは正しい人（自分の罪を認めず、自分は正しいと思い上がる人）を招くためではなく、罪人（へりくだり自分の罪を心から認める人）を招いて、悔い改めさせる（自分の罪を認め、方向転換をし、神に立ち返り、神と共に神の御心に生きる）ために来たのです」（ルカ5：32）。

V 「アブラハムからダビデまでの代が全部で十四代、ダビデからバビロン移住（BC 586年）までが十四代、バビロン移住からキリストまでが十四代になる」：17。神がアブラハムに救いの約束をなさってから最初の大王ダビデに救い主の約束をなさるまでが、着々と上昇線を辿った期間。ついにダビデの子なる救い主の約束にまでたどりついた。しかし、ダビデ王以後は、救い主が現れるどころか、歴代の王達は、神に背く者ばかりとなって、最後にはバビロンに移され、王座はくつがえされた。神の祝福と救いのグラフは下降の一路をたどり、ついに消え去ったかに見えた。バビロンに移されてから数十年して再び帰国してからも、ユダヤ人は、ますます忘れられた存在となった。この系図の最後の16節に出て来る「マリヤの夫ヨセフ」は、ダビデ王の家系ではありながら、王には、ほど遠く、貧しい大工をしていた。ダビデ王の子孫として与えられるという救い主の約束も、もはや破棄されたように思われていた。そんな時に、「キリストと呼ばれるイエスはこのマリヤからお生まれになった」：16。

神は、何もないところで突然アブラハムに救いの約束を与え、それをどんどん成就して行かれた。しかし神は、人間の判断では、下落の一路をたどって世間的には全く忘れられた存在となり果てたダビデの末の中から、これ以上、下落しようがないほどのどん底に達した時に、救い主を生まれさせて下さったのである。ここには、歴史を支配しておられる大能の神が、歴史の浮き沈みに左右されず、御心を実現される真実と御力をお持ちである事が示されている。世の目を見た人間の評価や、短気な人間の判断とは違い、実に約束に忠実な神の真実が、手に取るように図示されている。イエス様は、こういう神の力と恵みの結実として、クリスマスに来て下さった方である。感謝します。

VI 私達への励まし。本日のイエス・キリストの系図は、私達を励ます。私達が、自分の家、家系に失望する時、救い主が、現れて下さる。他の人を責める私達に、「あなたの心に罪があります。その罪の為に私はクリスマスに生まれ、十字架で、あなたの身代わりに刑罰を受け死にました」と語り掛けて下さる救い主がおられる。私達が、人生の中が下り坂で、どん底と思われる時、救い主が共にいて下さる恵みがある。自分の力や努力ではどうにもならない重荷に打ちひしがれる時、救い主が共にいて下さる。色々な罪、あやまち、汚れに、打ちひしがれる時、救い主がおられる。自分の罪を正直に告白する時、赦し、新しい人生を与えて下さる救い主がおられる。ハレルヤ！